

**2019 年度版**  
**交通事故の実態**

**2018.04 ~ 2019.03**



**神奈川県自動車交通共済協同組合**

## 2019 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2018 年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、次の通り交通事故防止重点項目を掲げ、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

- 追突事故の根絶
- 交差点事故の根絶
- 後退・構内事故の根絶

その結果、対人共済では 412 件（前年度比 14 件減）、搭傷共済では 7 件（同 2 件減）、対物共済では 1,602 件（同 113 件増）、車両共済では 112 件（同 10 件減）となり、過去 5 年間において、対人共済は最も少ない件数となりましたが、死傷者は 534 人（前年度比 4 人増）、対物共済は構内事故が 591 件（同 97 件増）となりました。

ここに、2019 年度版「交通事故の実態」として、2018 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いです。

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
  - 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数
- 「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

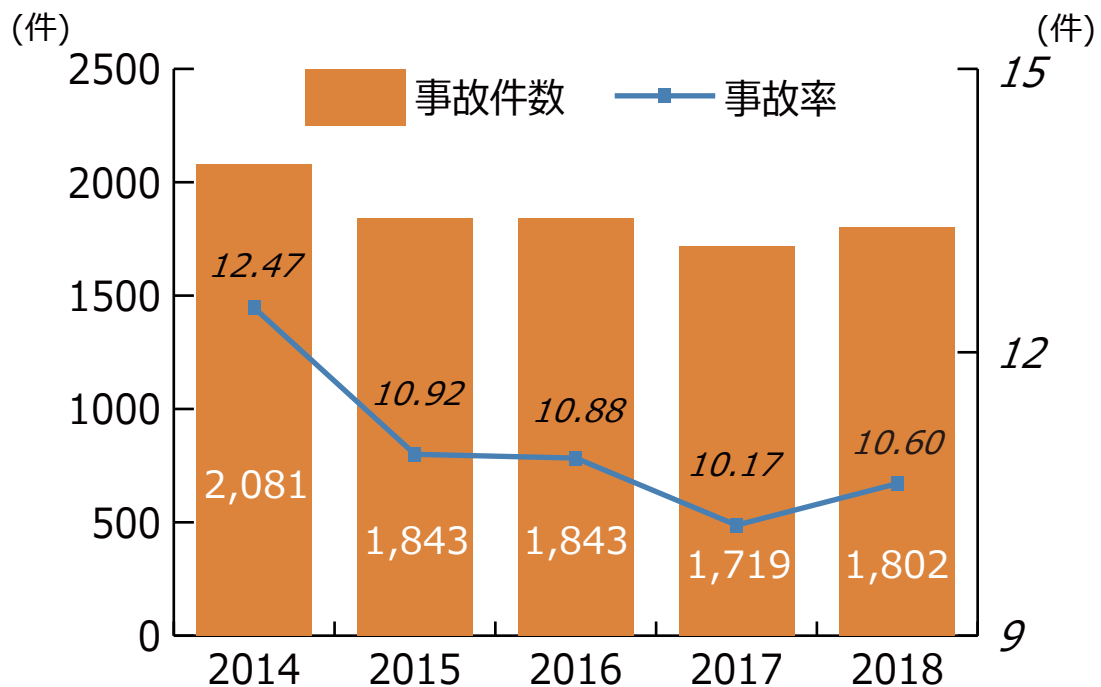
# 目次

1. 交通事故発生状況（全事故）…………… 1 頁
  - （1）事故発生件数と事故率（2014～2018年度）
  - （2）月別事故発生件数（2018年度）
  - （3）類型別事故発生件数（2018年度）
  - （4）道路形状別事故発生件数（2018年度）
  - （5）発生時間帯別事故発生件数（2018年度）
  - （6）運転者年齢層別事故発生件数（2018年度）
  - （7）原因別事故発生件数（2018年度）
2. 共済種目別事故発生状況…………… 5 頁
  - （1）共済種目別事故発生件数・事故率
  - （2）対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）
  - （3）対物共済類型別件数
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2018年度）… 6 頁
  - （1）追突事故の実態
    - ① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）
    - ② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金
    - ③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス
  - （2）交差点事故の実態
    - ① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）
    - ② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）
    - ③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金
    - ④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス
  - （3）構内事故の実態（対物共済）
    - ① 構内事故の類型別事故状況
    - ② 構内事故の原因別事故状況
    - ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金
    - ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス
  - （4）交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）
    - ① 交通弱者との道路形状別事故状況
    - ② 交通弱者との原因別事故状況
    - ③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金
    - ④ 交通弱者年齢層と事故発生場所
    - ⑤ 交通弱者被害者類型・態様別
    - ⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金…………… 15 頁
5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生概況…………… 15 頁
  - （1）対人共済
    - ① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
    - ② 道路形状別の事故発生状況
    - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
    - ④ 原因別の事故発生状況
    - ⑤ 類型別の事故発生状況
  - （2）対物共済
    - ① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
    - ② 道路形状別の事故発生状況
    - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
    - ④ 原因別の事故発生状況
    - ⑤ 類型別の事故発生状況
6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）… 20 頁
  - （1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
  - （2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況
  - （3）運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
  - （4）高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス
7. 2018年度交通事故防止強化月の事故発生状況…………… 23 頁
  - （1）月別事故発生件数・事故率
    - ① 全事故
    - ② 対人共済
    - ③ 対物共済
  - （2）道路形状別事故発生割合（全事故）
  - （3）運転者年齢層別事故発生割合（全事故）
  - （4）類型別事故発生割合（全事故）
  - （5）原因別事故発生割合（全事故）
8. 交協連傘下15組合の2018年度事故発生状況…………… 27 頁
  - （1）事故発生状況（対人・対物事故）
  - （2）原因別事故発生状況（対人事故）
  - （3）類型別事故発生状況（対人事故）
  - （4）運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

## 1. 交通事故発生状況（全事故）

### （1）事故発生件数と事故率（2014～2018年度）

事故発生件数、事故率ともに前年度まで減少傾向でしたが、2018年度は事故発生件数、事故率ともに増加となりました。



※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

※事故率は100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

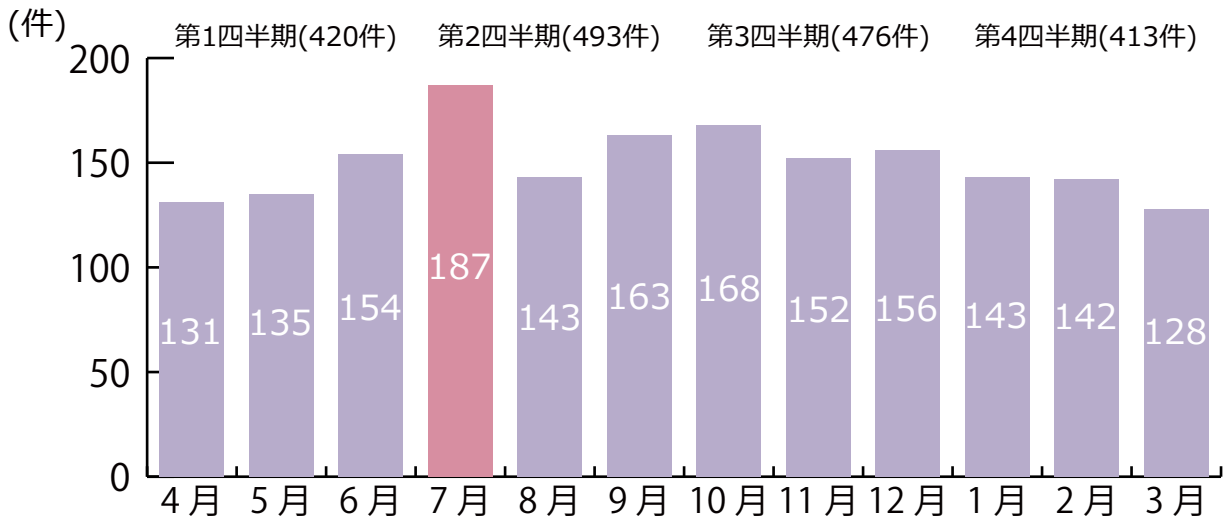
### 「共済種目別事故発生件数」

(件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
対人	443	463	447	426	412
搭傷	12	8	10	9	7
対物	1,640	1,617	1,645	1,489	1,602
車両	107	117	118	122	112
合計	2,202	2,205	2,220	2,046	2,133
全事故件数	2,081	1,843	1,843	1,719	1,802

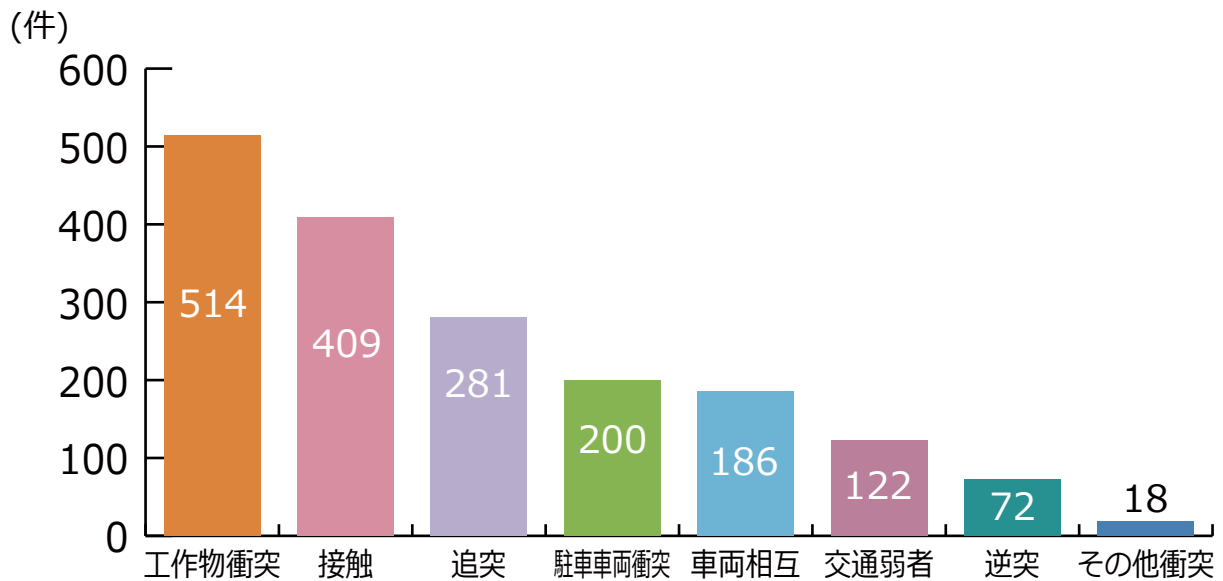
### (2) 月別事故発生件数（2018年度）

月別では、7月が突出して多く、四半期別にみても夏場における7月から9月が493件と最も多く発生しています。



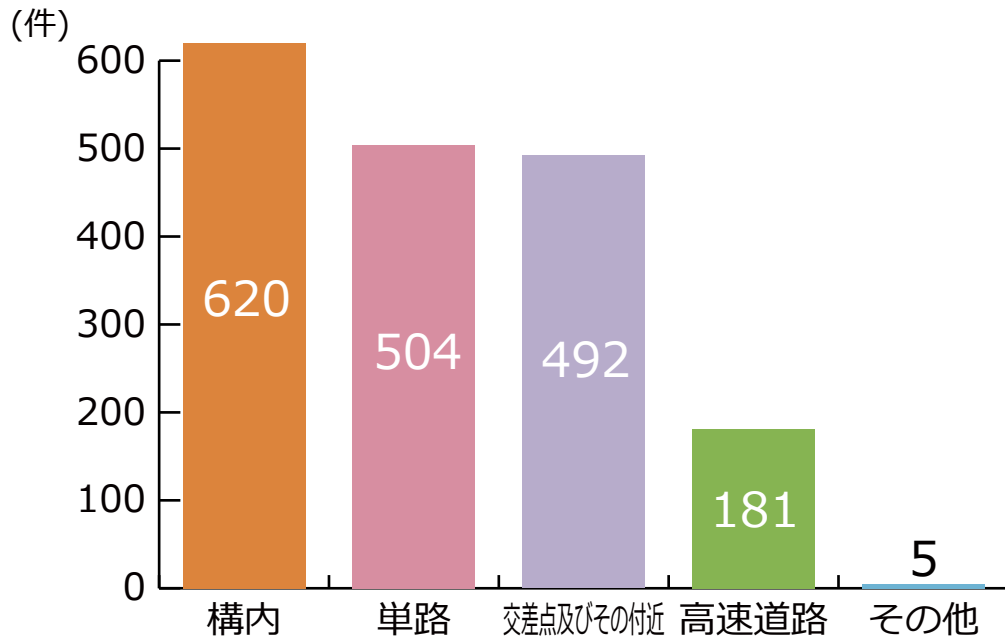
### (3) 類型別事故発生件数（2018年度）

類型別では、工作物への衝突が最も多く、前年度比で14.7%（66件）増加しました。



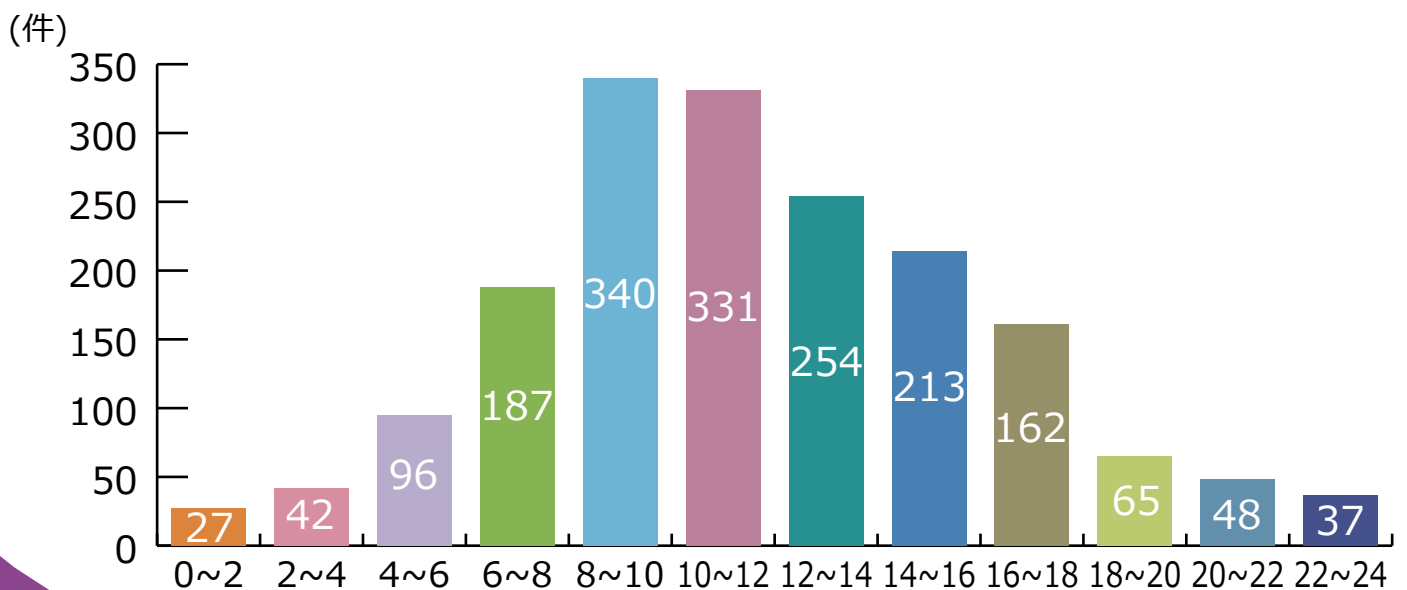
#### (4) 道路形状別事故発生件数（2018年度）

道路形状別では、構内が最も多く、前年度比で18.8%（98件）増加しました。また、高速道路が前年度比で24.8%（36件）増加となり、発生件数が多くなっています。



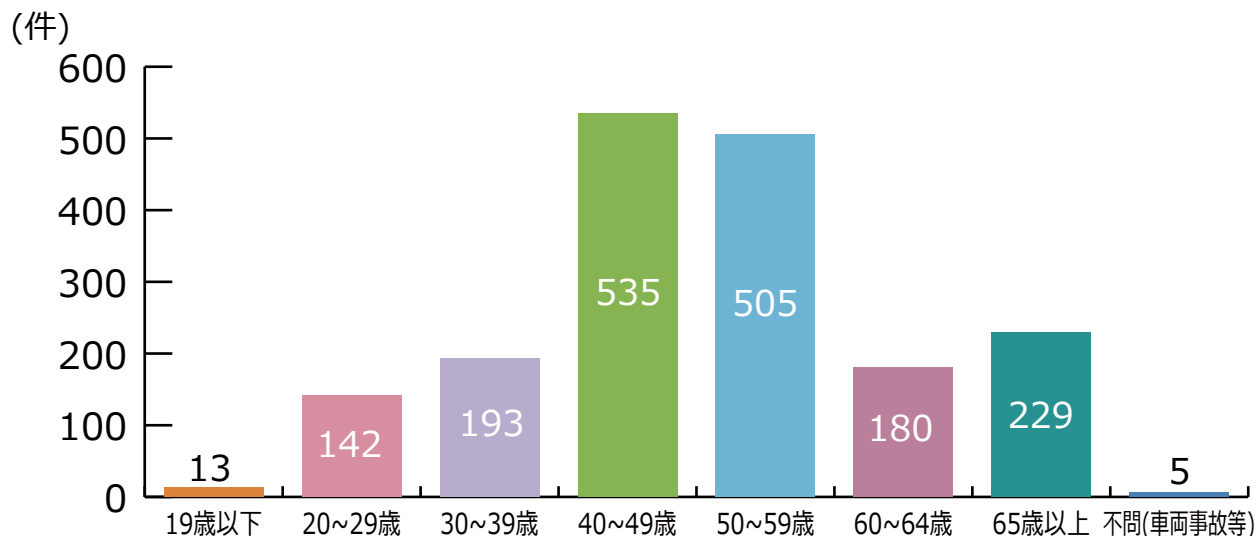
#### (5) 発生時間帯別事故発生件数（2018年度）

発生時間帯別では、交通量が増加する8時から12時までの時間帯に多発しており、前年度の同時間帯に比べても6.7%（42件）増加しています。



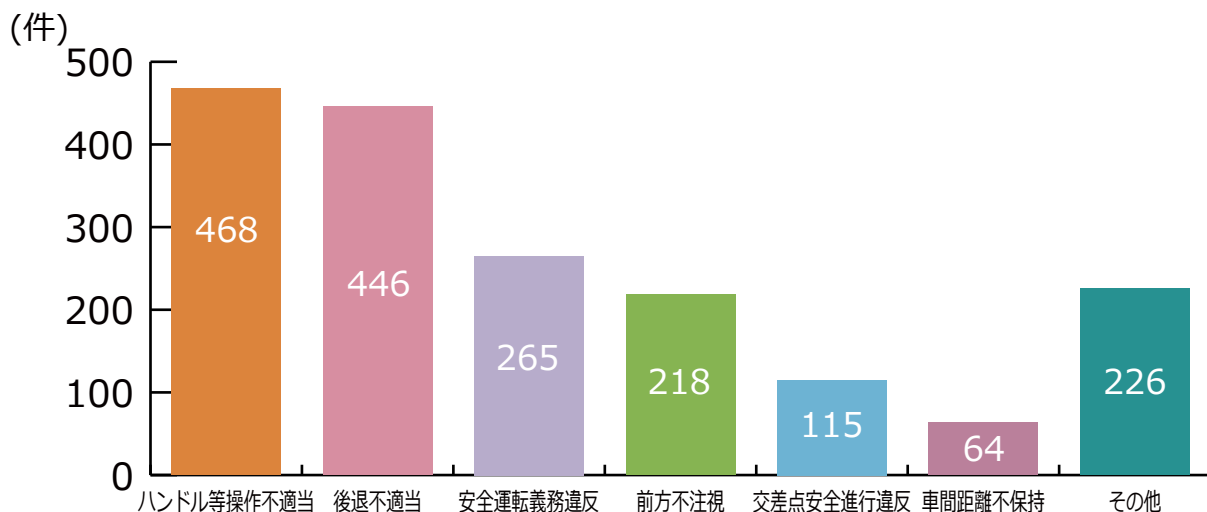
### (6) 運転者年齢層別事故発生件数（2018年度）

運転者年齢別では、40歳代が最も多く、また65歳以上の高齢運転者は、前年度比で16.2%（32件）増加しており、年々増加傾向にあります。



### (7) 原因別事故発生件数（2018年度）

原因別では、ハンドル等操作不適當による発生が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。



#### 道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

## 2. 共済種目別事故発生状況

### (1) 共済種目別事故発生件数・事故率

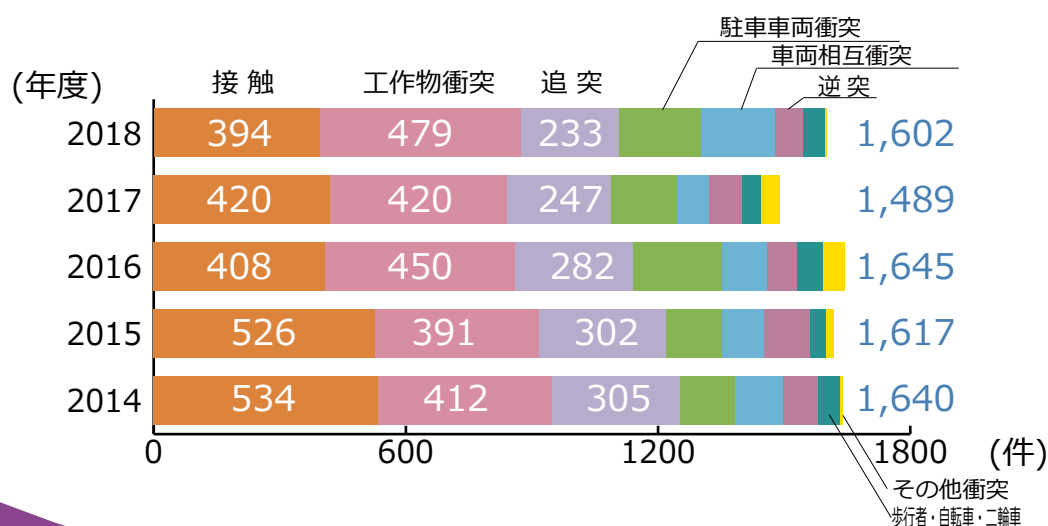
共済種目別		年度				
		2014	2015	2016	2017	2018
対人	発生件数(件)	443	463	447	426	412
	死者数(人)	5	10	7	5	7
	傷者数(人)	580	618	592	525	527
	事故率(件)	2.65	2.74	2.64	2.52	2.42
搭傷	発生件数(件)	12	8	10	9	7
	事故率(件)	0.21	0.13	0.17	0.15	0.11
対物	発生件数(件)	1,640	1,617	1,645	1,489	1,602
	事故率(件)	12.51	12.06	12.29	11.22	11.96
車両	発生件数(件)	107	117	118	122	112
	事故率(件)	6.70	6.51	6.66	6.72	5.93

### (2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

区分	年度				
	2014	2015	2016	2017	2018
① 死亡(人)	5	10	7	5	7
② 後遺障害(人)	48	36	27	33	32
③ 傷害(人)	532	582	565	492	495
④ 合計(人)	585	628	599	530	534
⑤ ①+②(人)	53	46	34	38	39
⑥ ⑤の④に対する割合(%)	9.1	7.3	5.7	7.2	7.3

### (3) 対物共済類型別

対物事故は、過去5年間で最も少ない件数だった前年度と比較して、接触事故と追突事故は減少したものの、工作物衝突は14.0%（59件）増加しています。



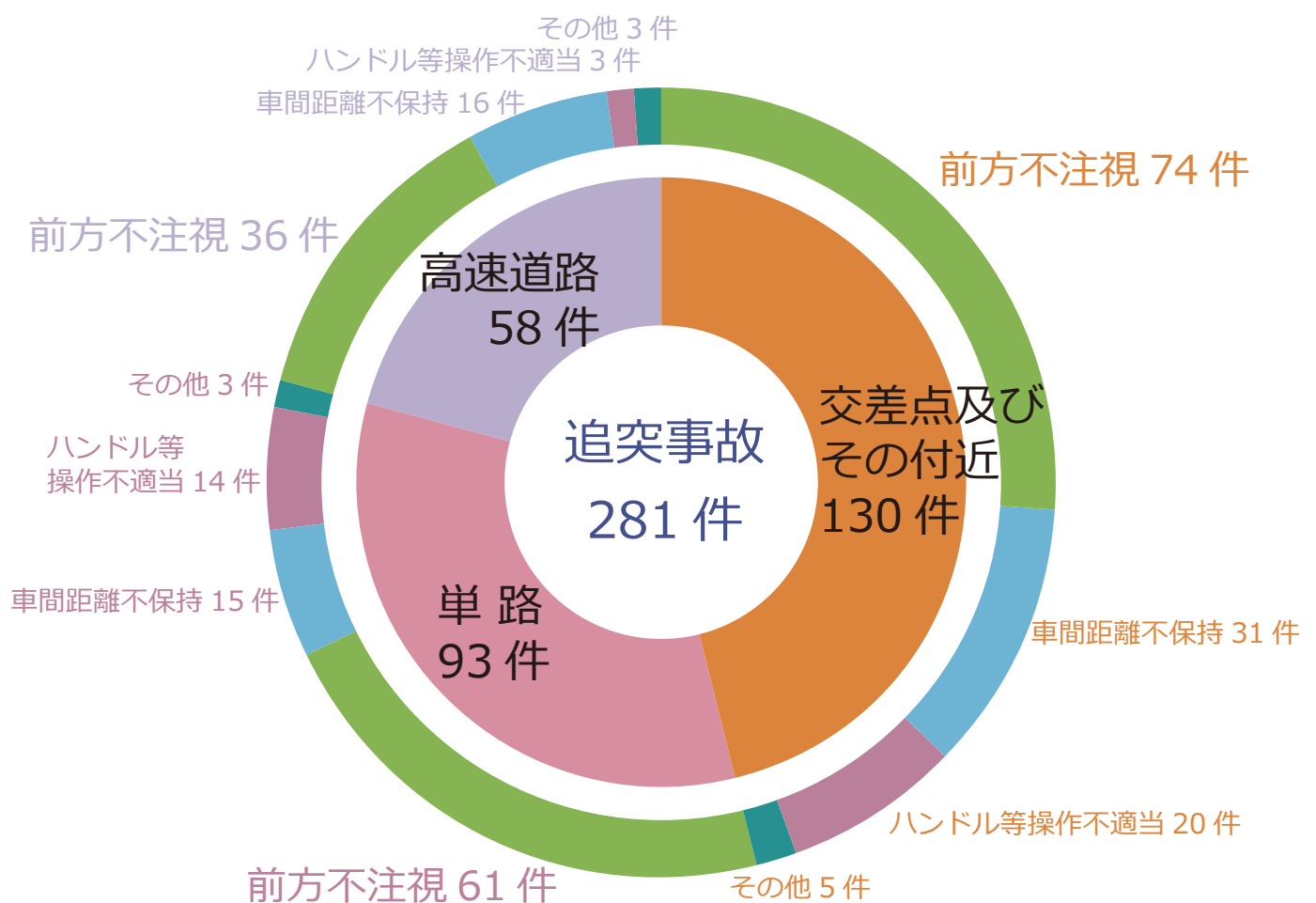


### 3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2018年度）

#### （1）追突事故の実態

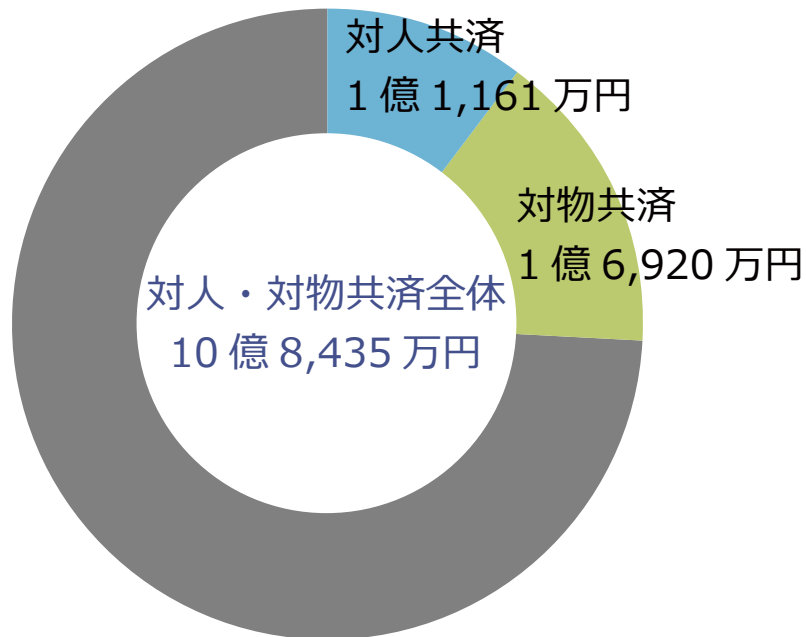
##### ① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

追突事故は、前方不注視、車間距離不保持およびハンドル等操作不適當が主な原因となっています。



## ② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2018年度の追突事故による支払共済金は、対人共済1億1,161万円、対物共済1億6,920万円、総額で2億8,081万円となり、全体の25.9%にあたります。



## ③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因の一つとして、前方車両の発見が遅れ、気が付いてからブレーキを踏んだけれど間に合わず追突するケースがあります。

### 追突事故を防止するには

#### Advice

##### 1. 信号の変わり目に注意

「前車は止まるかもしれない」と常に考え、いつでも停止することができるような速度で運転しましょう。

##### 2. 見込発進に注意

信号待ちから発進する時は、前車の動静をしっかりと確認しましょう。

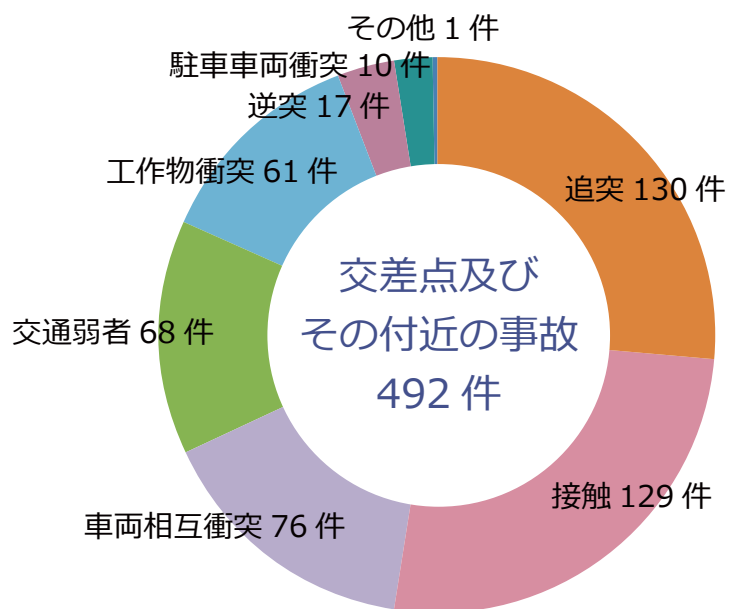
##### 3. コメンタリー運転の実践で事故防止

「信号よし」・「前方よし」・「車間距離注意」など、声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

## (2) 交差点事故の実態

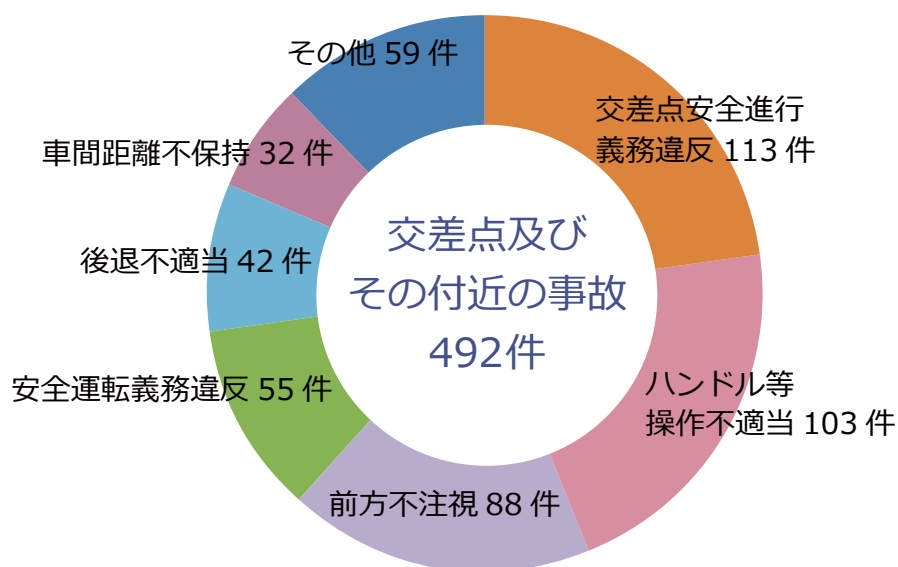
### ① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、追突事故と接触事故で全体の52.6%を占めています。



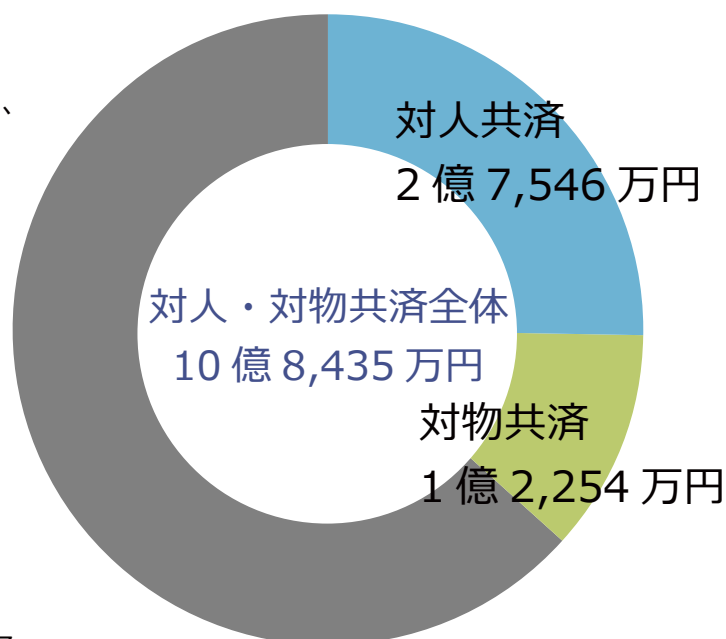
### ② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、交差点安全進行義務違反が主な原因となっており、次いでハンドル等操作不適當、前方不注視となっています。



### ③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2018年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済2億7,546万円、対物共済1億2,254万円、総額で3億9,800万円となり、全体の36.7%にあたります。



### ④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、交差点安全進行義務違反、ハンドル等操作不適當、前方不注視が主な原因となっています。車、人が混在する交差点では、特にコメンタリーによる確実な安全確認が必要です。

## 交差点事故を防止するには

### Advice

#### 1. 右折先の横断歩道上の歩行者・自転車に注意

右折する際、対向車線の状況に気をとられ、右折先の歩行者や自転車を見落としやすくなります。コメンタリー運転の実践に合わせ、顔をずらして周囲を確認するなど、出来るかぎり死角となる部分を減らし、事故防止に努めましょう。

#### 2. コメンタリー運転の実践に合わせ右折時の対向車(二輪車)に注意

渋滞の切れ目を右折するときは、道路端からくる二輪車に注意し、道路端まで見渡せる位置まで徐行して二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

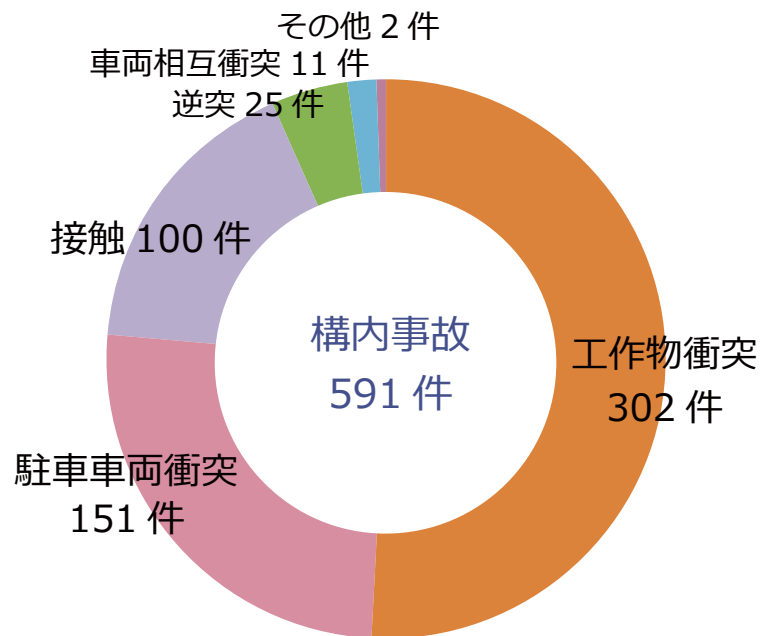
#### 3. 左折時の内輪差に注意

狭い道を左折するときは、塀や電柱などに接触する危険があります。内輪差を考慮し、側方の安全をこまめに確認しましょう。

### (3) 構内事故の実態（対物共済）

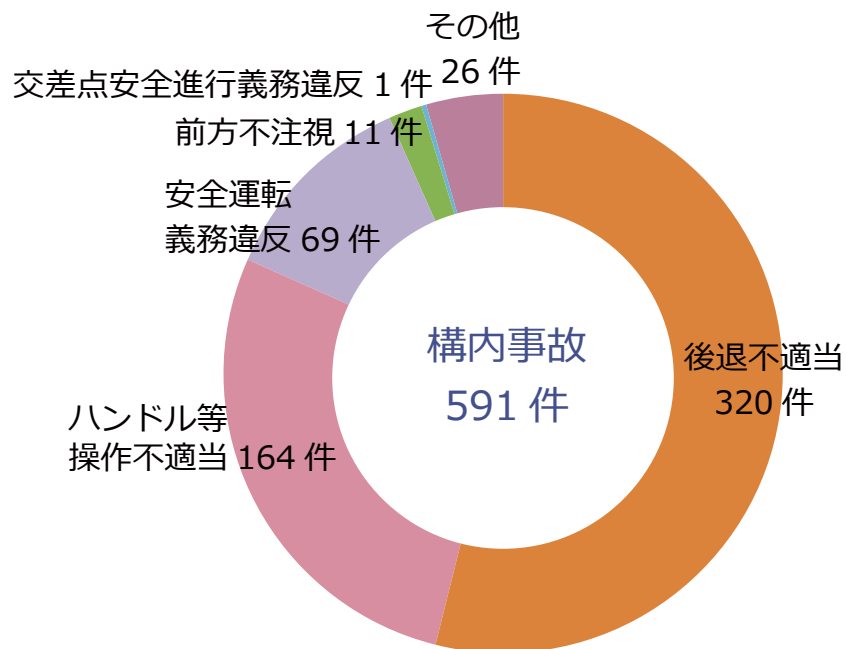
#### ① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、工作物への衝突事故が302件発生と最も多く、構内事故全体の51.1%を占めています。



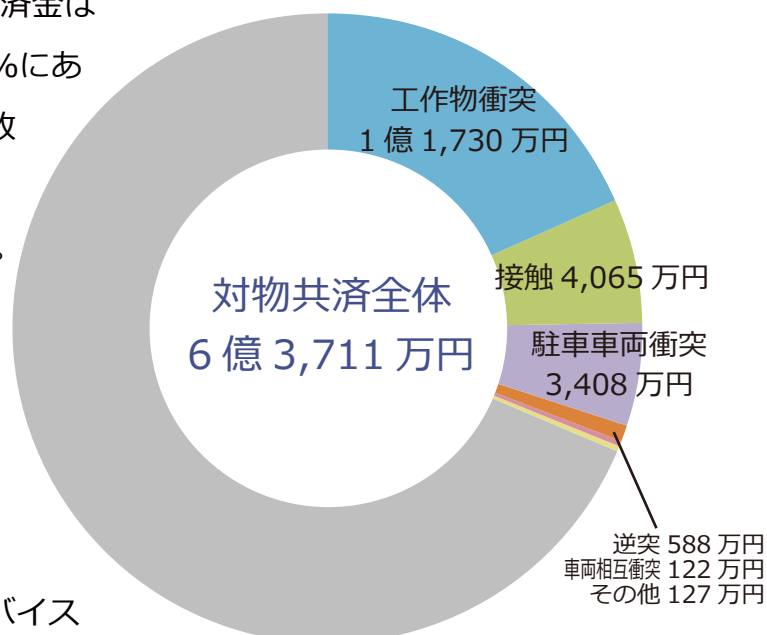
#### ② 構内事故の原因別事故状況

構内事故の原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が320件と54.1%を占めています。



### ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金

2018年度の構内事故による支払共済金は2億40万円で、対物共済全体の31.5%にあたります。また、工作物への衝突事故が1億1,730万円と構内事故による支払共済金の58.5%を占めています。



### ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内での事故の要因は、「いつもの構内だから…」と警戒心が低下したこと」が、事故の大きな要因となっています。慣れた構内ほど「油断の心理」を警戒することが必要です。

## 構内事故を防止するには

### Advice

#### 1. 構内ルールを必ず守る

構内速度を守り、一時停止場所では必ず止まって安全を確認し、意識的に警戒心を高めるようにしましょう。

#### 2. バックは細心の注意を払う

構内でのバックは、すぐにバックせず、ひと呼吸おいて走行しましょう。また、「障害物は必ずある。」という気持ちで、安全を確認しましょう。

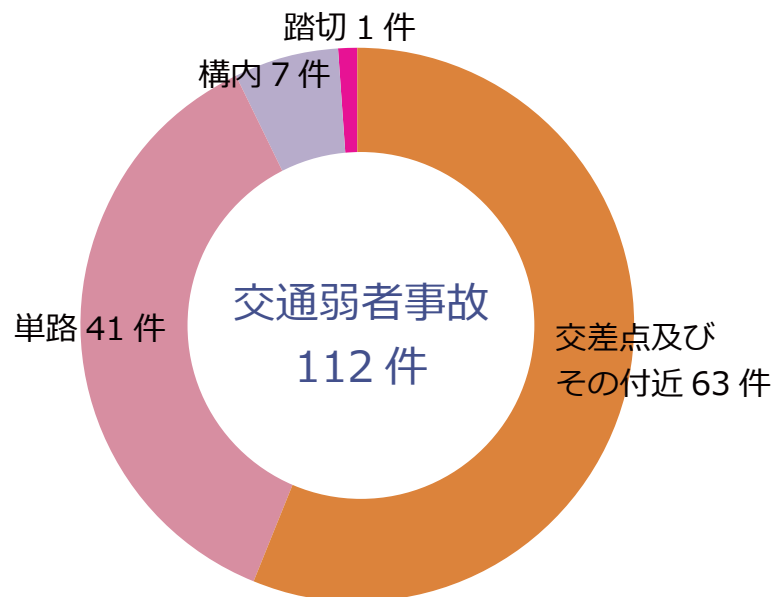
#### 3. 後退時もコメントリー運転の実践

必ず下車確認「障害物なし」、バック開始「後方注意 よーし」等と呼称し、「安全確認を声に出し」事故防止をするという意識を強く持ちましょう。

#### (4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

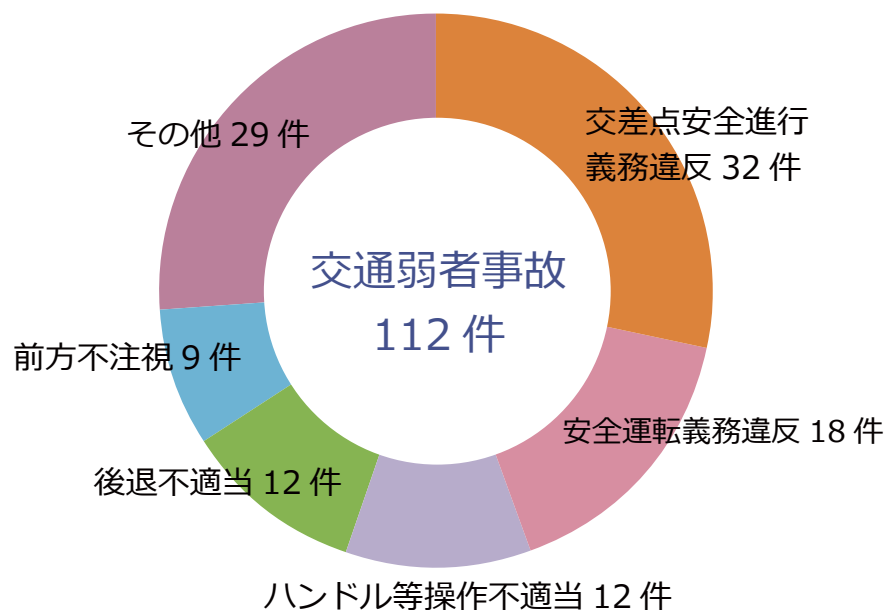
##### ① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者（歩行者19件・自転車47件・二輪車46件）を被害者とする事故112件のうち、63件が交差点及びその付近で発生しています。



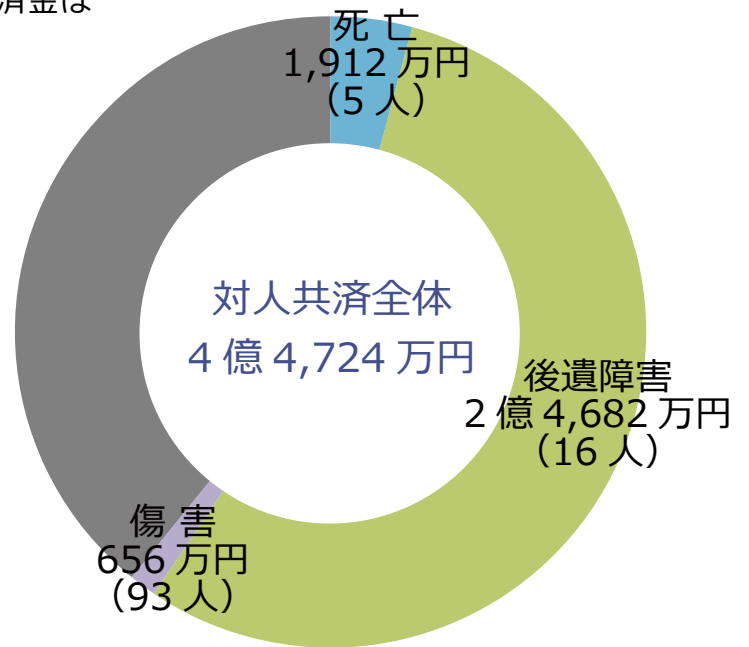
##### ② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との原因別では、交差点を通過する際、通行車両、歩行者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が32件と多く、安全運転義務違反によるものも多く占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2018年度の交通弱者に対する支払共済金は  
 死亡事故に対して1,912万円、  
 後遺障害に対して2億4,682万円、  
 傷害に対して656万円  
 総額2億7,250万円となっています。  
 対人共済全体の支払額に占める割合は  
 60.9%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は112件で被害者数は114人となっています。

被害者年齢層別では65歳以上が最も多く、発生場所では交差点及びその付近が過半数を占めています。

(人)

年 齢	場 所				合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	踏 切	
6 歳以下	1	1	1		3
7~12 歳	2	1			3
13~15 歳	2	1			3
16~19 歳	9	2			11
20~29 歳	10	7			17
30~39 歳	11	3	1		15
40~49 歳	8	8			16
50~59 歳	7	9	1		17
60~64 歳	2	3	3		8
65 歳以上	12	6	2	1	21
合 計	64	41	8	1	114



⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型別では、自転車が49件と最も多く発生し、全体に占める割合も43.0%となっています。

(人)

区分 被害者態様	交通弱者			合計
	歩行者	自転車	二輪車	
死亡	2	1	2	5
後遺障害	5	6	5	16
傷害	12	42	39	93
合計	19	49	46	114

⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故を起こさないためには、交通弱者の特性を理解し、「見る」、「見せる」、「予測する」ことが必要です。

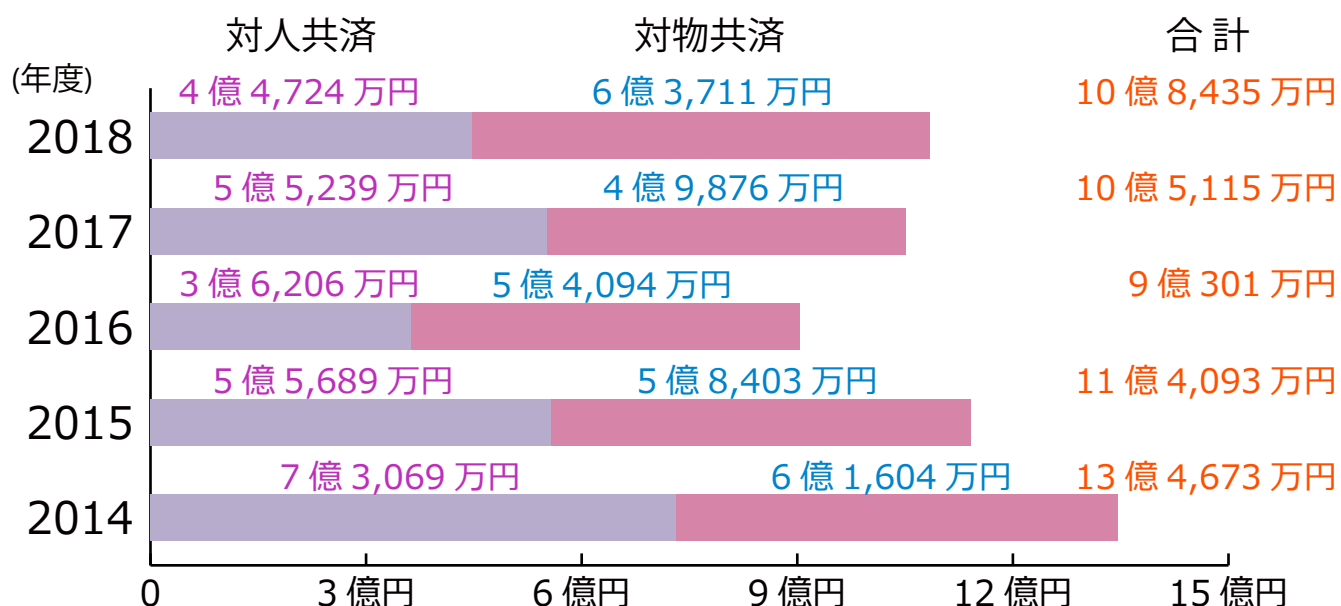
### 交通弱者との事故を防止するには

#### Advice

1. 「見る」とは、早期に相手を発見することです。交差点の左折時は左側方の確認が重要ですが、ミラーにも死角があります。目視とミラーで数回に分けて確認して交通弱者を早期に発見しましょう。
2. 「見せる」とは、自車の動きを相手に見せて知ってもらう事です。夕暮れ時は早めにライトを点灯、夜間の上向きライトの活用等で交通弱者に自車の動きを知らせましょう。
3. 「予測する」とは、事故となる危険を予測し事故を防止することです。路地や駐車車両の陰からの子どもや自転車の飛出し、後方から接近する二輪車の動向等、常に危険を予測する「かもしれない運転」を励行しましょう。

#### 4. 過去5年間に於ける発生事故に係る支払共済金

2018年度の対人・対物共済の支払共済金は10億8,435万円で、対物共済では前年度と比較して1億3,835万円の増額となり、過去5年間で最も高額となりました。

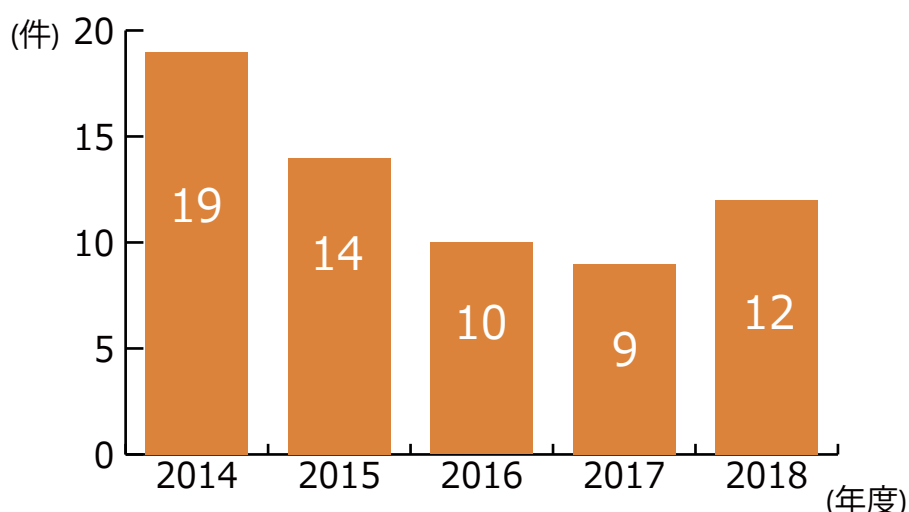


#### 5. 過去5年間に於ける高額賠償事案の事故発生概況

##### (1) 対人共済

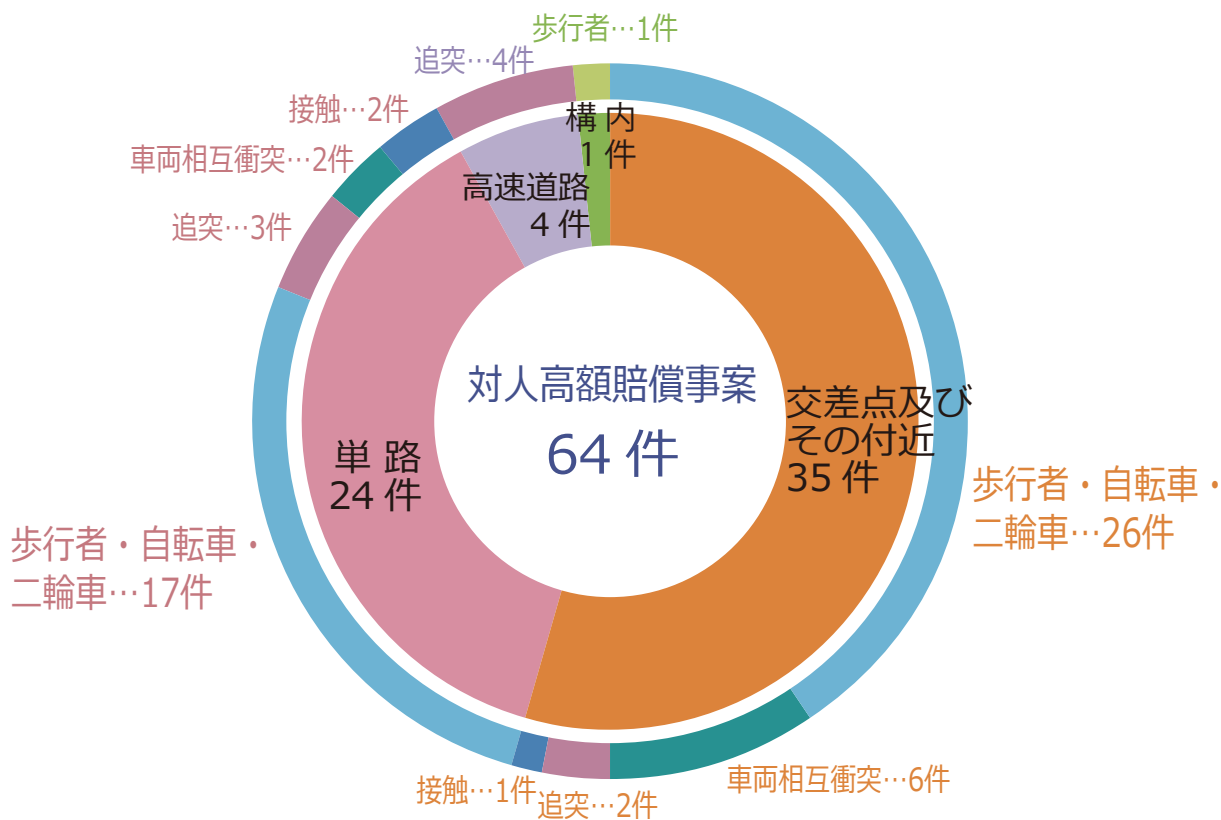
##### ① 高額賠償事案(1,000万円以上)64件の事故発生状況

2018年度の高額賠償事案は12件の発生で、前年度より3件増加しました。



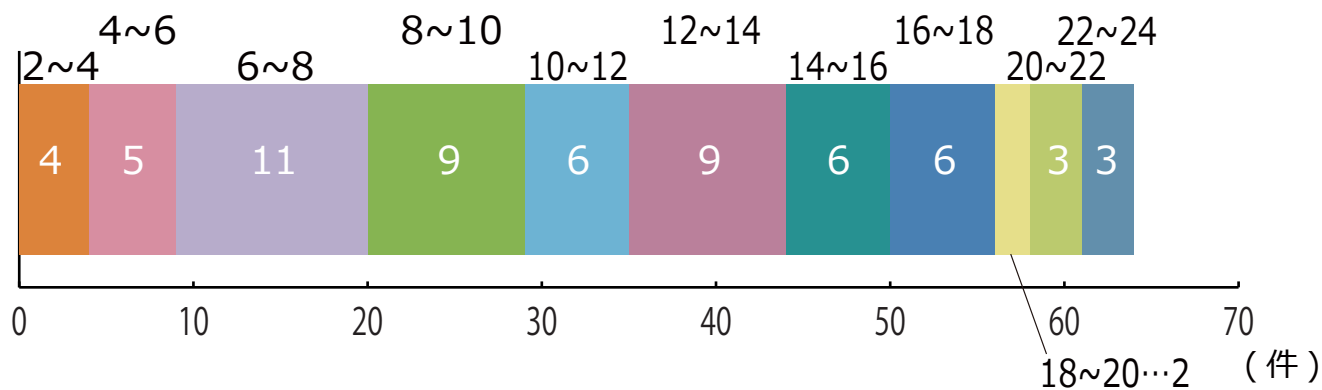
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で35件、単路で24件事故が発生しており、その多くは交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が占めています。



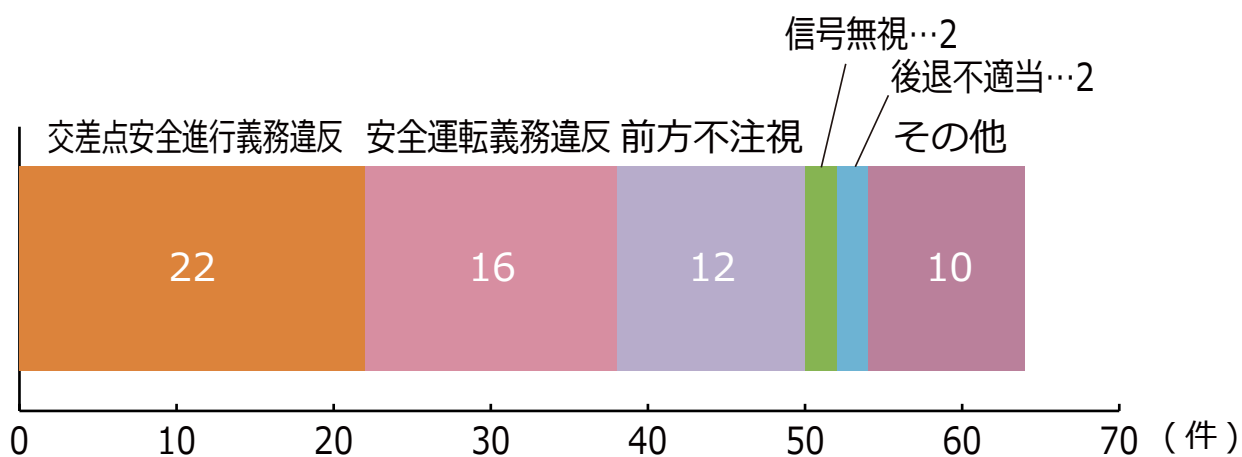
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、通勤・通学時間帯と重なり交通量や歩行者が増える6時から10時、荷動き等が活発となる12時から14時までの時間帯に多く発生しています。



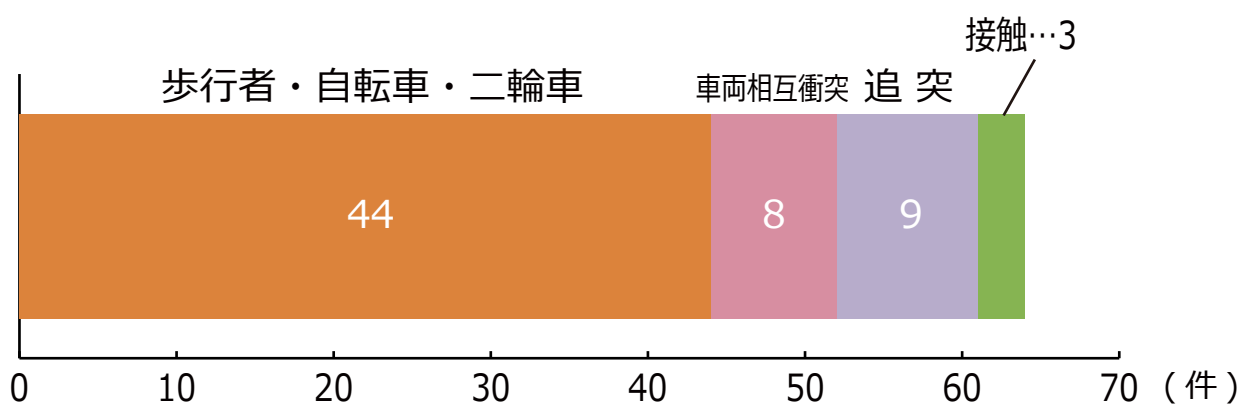
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が22件と最も多くなっています。



⑤ 類型別の事故発生状況

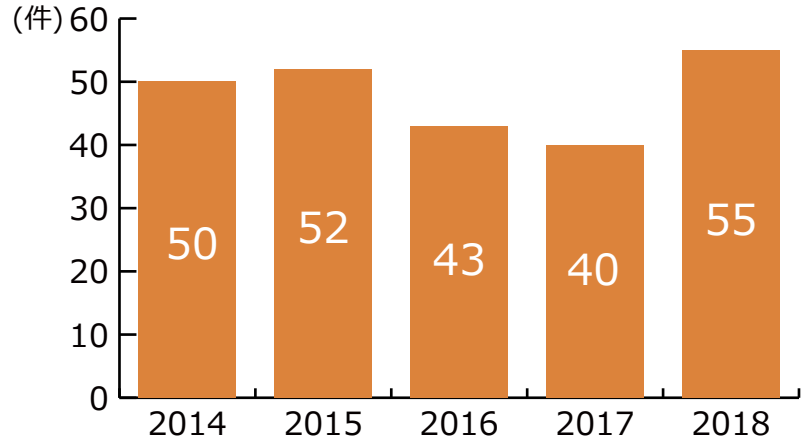
類型別では、交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が68.8%を占めています。



## (2) 対物共済

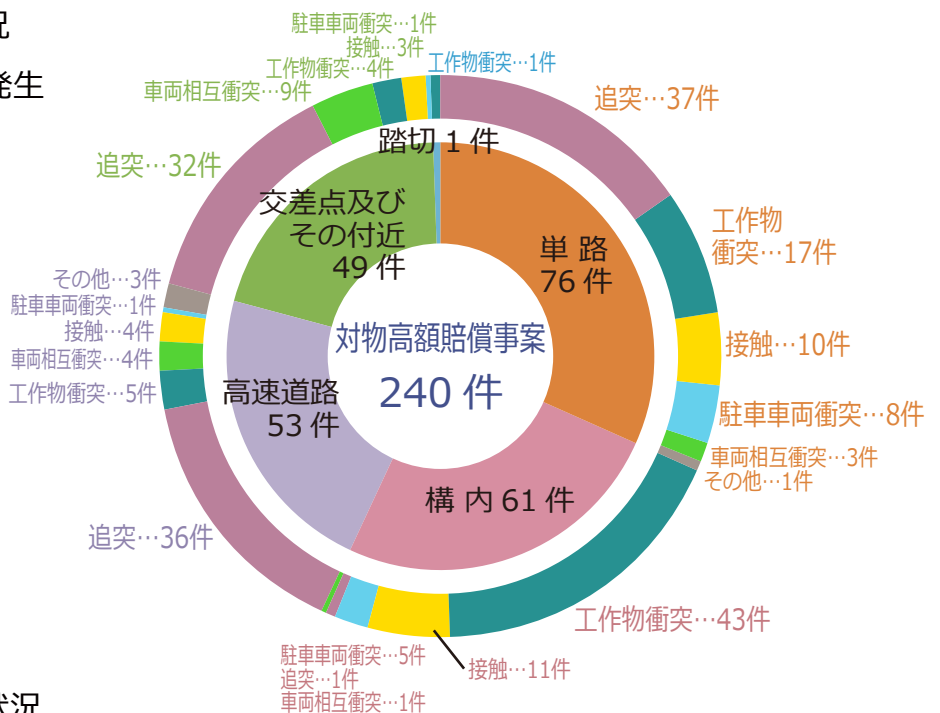
### ① 高額賠償事案(200万円以上)240件の事故発生状況

2018年度の高額賠償事案は55件の発生で、過去5年間で最も多い発生となっています。



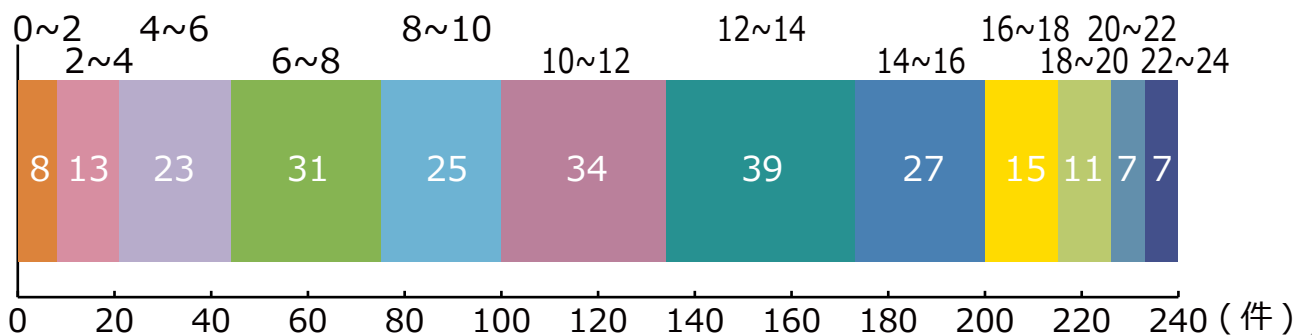
### ② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、単路で発生した事故が76件と最も多く、そのうち追突事故が37件と半数を占めています。また、構内における工作物との衝突が43件と高い割合を占めています。



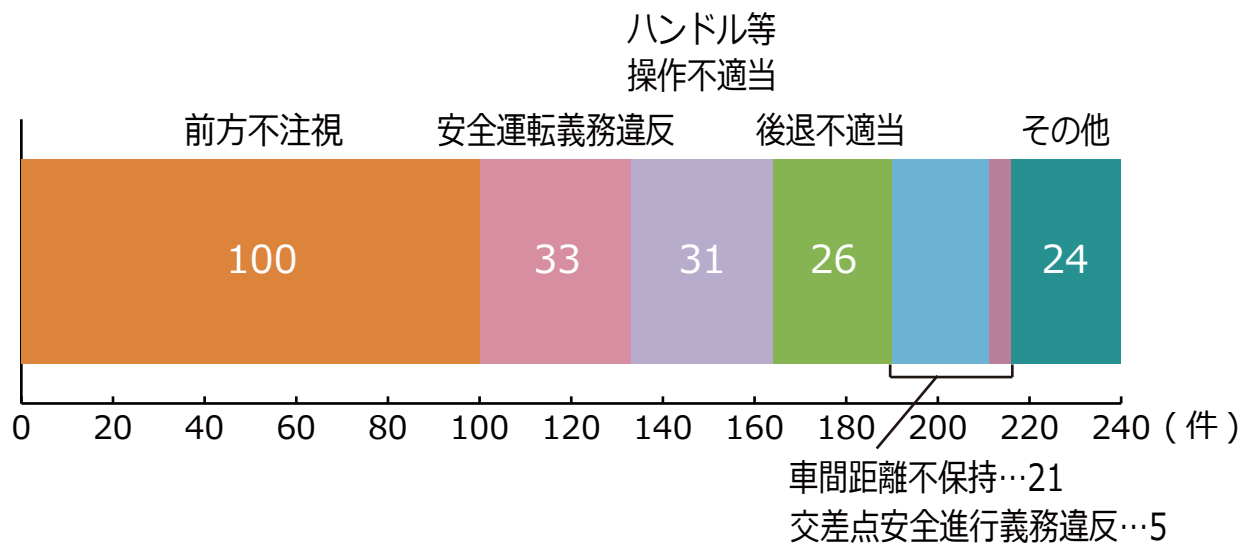
### ③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、10時から14時までの時間帯で事故が多く発生しています。



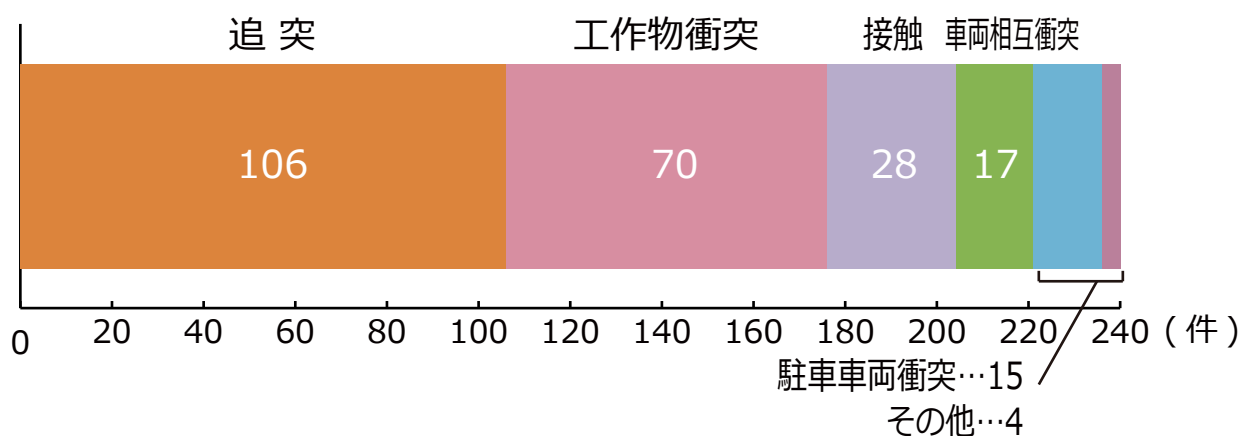
#### ④ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が100件と最も多く、次いで安全運転義務違反、ハンドル等操作不適當が多く発生しています。



#### ⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が106件と最も多く、なかでも玉突き事故などによる複数との車両損壊事故が高額賠償事案となる傾向があります。



## 6. 過去5年間に於ける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

### （1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、50歳代以降から交差点及びその付近での事故や単路での事故よりも構内での事故件数が増えています。また、年齢層別における構内事故の割合は、50～59歳で33.7%、60～64歳で37.0%、65歳以上39.7%と年齢が高くなるにつれて、構内事故の割合比率も高くなる傾向にあります。

(件)

区分	年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近		18	230	362	820	666	237	212	1	2,546
単路		25	260	409	967	714	237	298	6	2,916
高速道路		5	77	138	313	188	62	53	1	837
構内		13	160	367	913	798	316	373	25	2,965
その他		0	1	6	5	4	3	4	1	24
合計		61	728	1,282	3,018	2,370	855	940	34	9,288

### （2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、29歳以下は追突、30歳から59歳になると車両相互の接触、60歳以上になると工作物への衝突が最も高くなっています。

(件)

事故類型	年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	16	193	250	559	375	117	127	2	1,639
	逆突	3	38	59	126	104	52	49	0	431
	接触	9	166	360	854	642	212	222	6	2,471
	その他衝突	7	56	113	247	193	70	63	5	754
車両単独	駐車車両衝突	7	57	109	232	232	102	112	2	853
	工作物衝突	13	168	302	740	618	234	314	3	2,392
	その他	1	5	20	44	31	6	8	15	130
歩行者・自転車・二輪車		5	45	69	216	175	62	45	1	618
踏切・その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		61	728	1,282	3,018	2,370	855	940	34	9,288

### (3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別では、10時から12時の時間帯に事故が最も多く発生しており、30歳代以降幅広い層で同じ時間帯に事故が発生しています。

(件)

時間帯	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
0~2		0	4	24	65	46	13	11	0	163
2~4		1	15	22	62	62	17	11	2	192
4~6		0	23	71	156	118	49	42	4	463
6~8		10	82	141	354	276	98	93	1	1,055
8~10		9	148	217	527	399	153	184	3	1,640
10~12		8	141	249	575	456	179	204	7	1,819
12~14		13	99	163	434	349	115	154	4	1,331
14~16		11	101	146	338	304	108	112	8	1,128
16~18		6	68	113	226	162	66	71	2	714
18~20		2	30	74	145	90	24	34	0	399
20~22		1	13	33	70	53	18	14	1	203
22~24		0	4	29	66	55	15	10	2	181
合計		61	728	1,282	3,018	2,370	855	940	34	9,288

### (4) 高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、予測不適による判断の誤り、不適切なハンドルやブレーキ操作による操作上の誤りなどが起こりやすくなり、事故に繋がる恐れがあります。65歳以上を対象とした適齢診断の結果などを参考にいただき、事業主および管理者の皆様におかれましては、社員の安全を守るため、社内での安全運転指導をお願いいたします。



## 高齢運転者の事故防止アドバイス

### Advice

#### 1. コメンタリー運転の実践

加齢に伴い、若い時よりは発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ちコメンタリー運転を実践し、周囲への注意喚起を徹底しましょう。

#### 2. 「注意力」「集中力」の維持

中央線のセンターラインを踏んだら要注意。「集中力」「注意力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるため、再度、「集中力」「注意力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

#### 3. 速度制限・速度の維持

無意識のうちにスピードが出過ぎていた場合は要注意。「集中力」あるいは「感情を抑制する力」が低下している可能性があります。適宜メーターを確認するなど、速度管理の意識を常に持ちましょう。

#### 4. 健康管理の徹底

運転者は、自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。

#### 5. 「ゆとり」を持つ

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、常に「ゆとり」をもった運転が大切です。



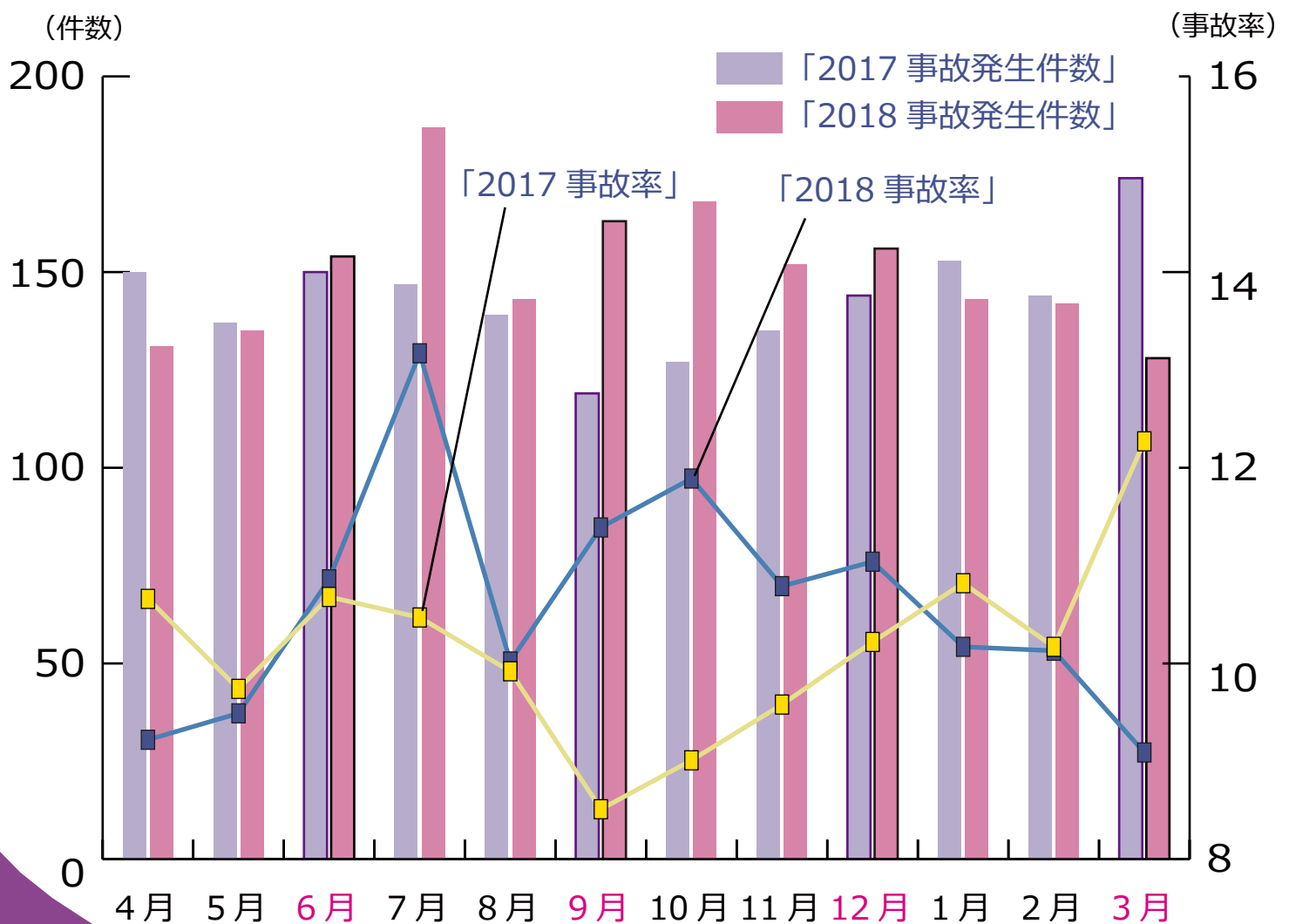
## 7. 2018年度交通事故防止強化月の事故発生状況

2018年度は6月、9月、12月、3月の4か月間を交通事故防止強化月に設定し、運転者講習会の開催、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などに取り組み事故防止を推進しました。

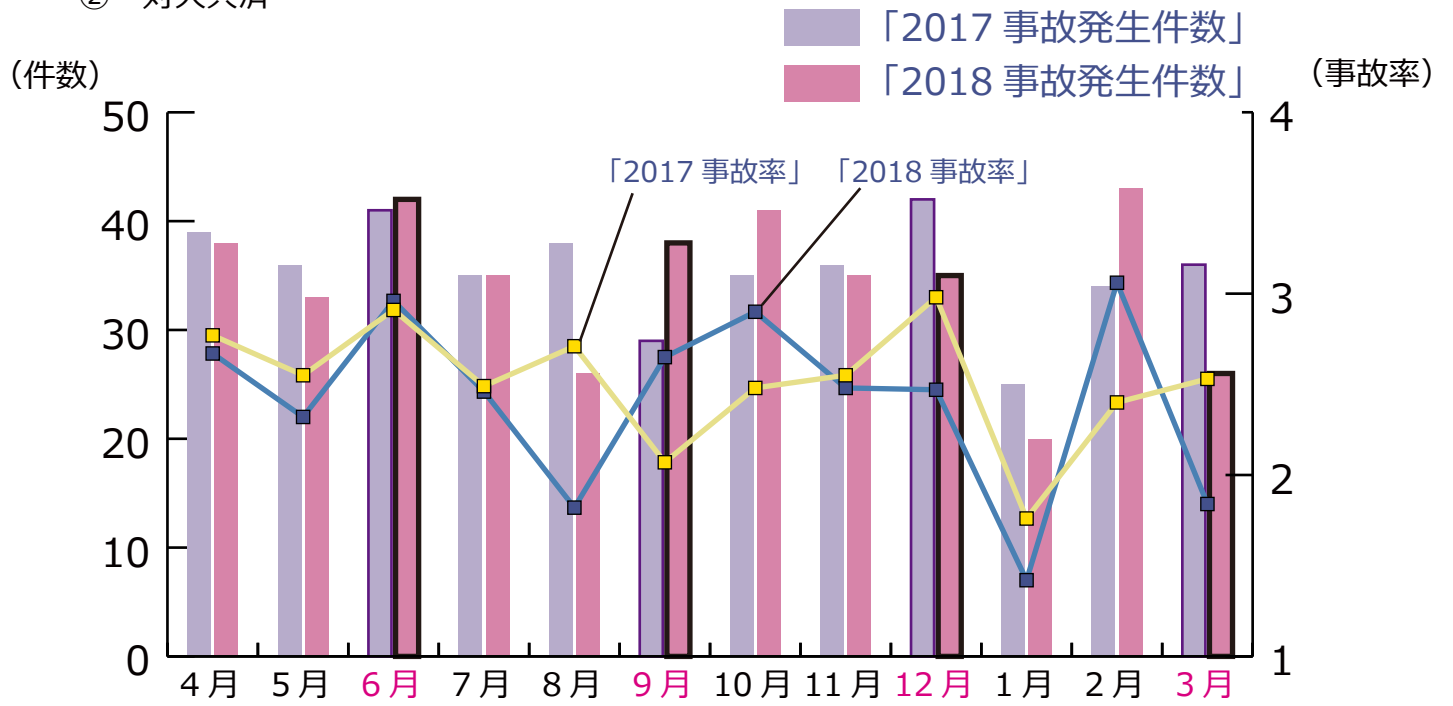
### (1) 月別事故発生件数・事故率

#### ① 全事故

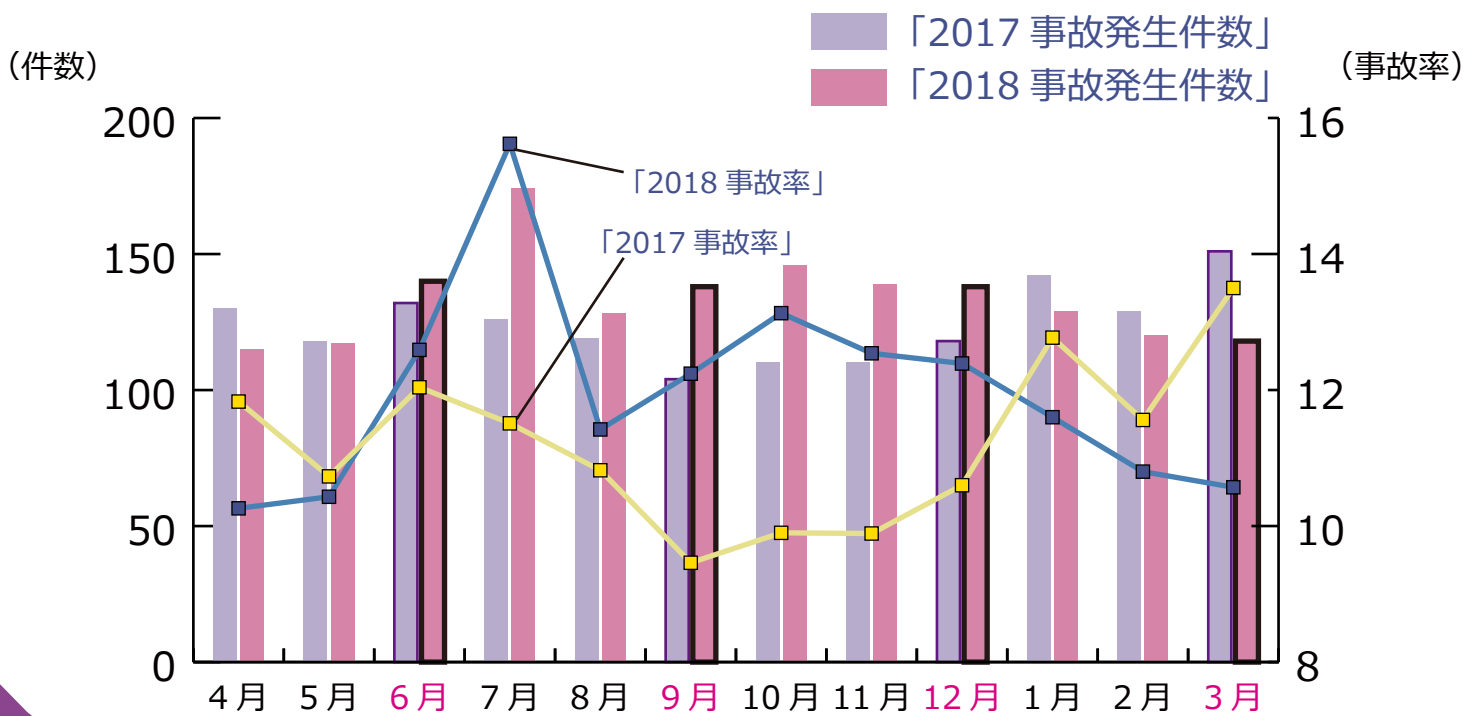
設定した強化月（6月、9月、12月、3月）は、3月のみ減少しましたが、その他の強化月は増加し、中でも9月は大幅な増加となりました。



② 对人共済

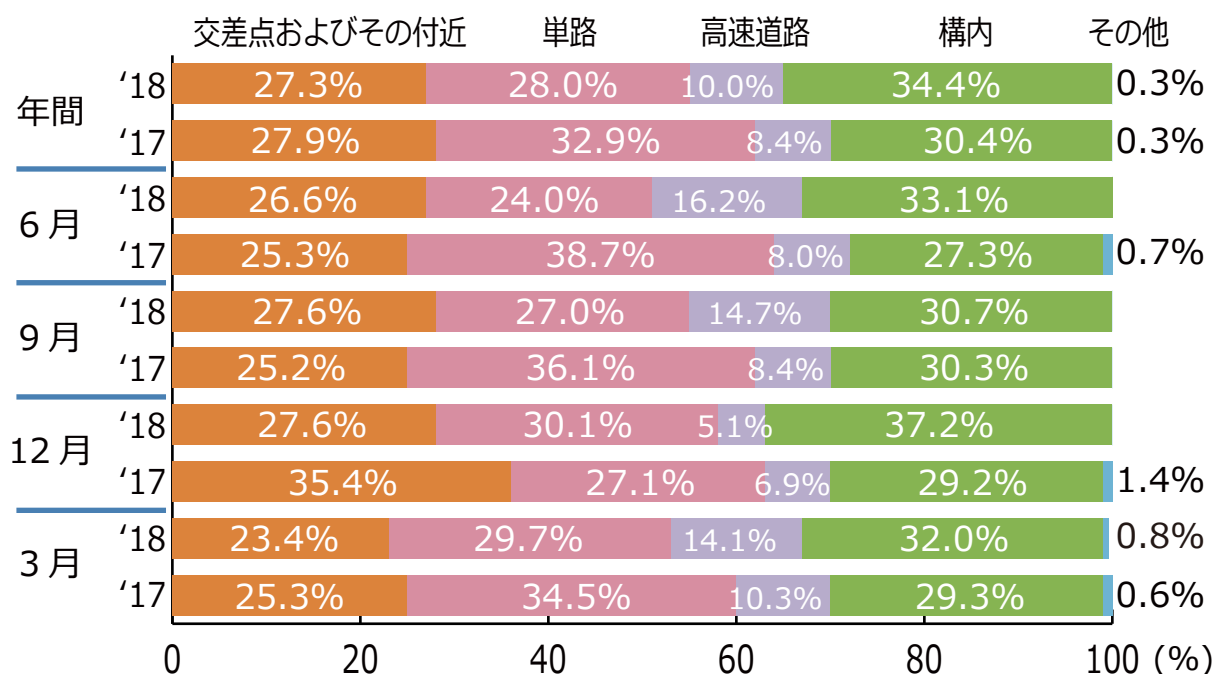


③ 対物共済



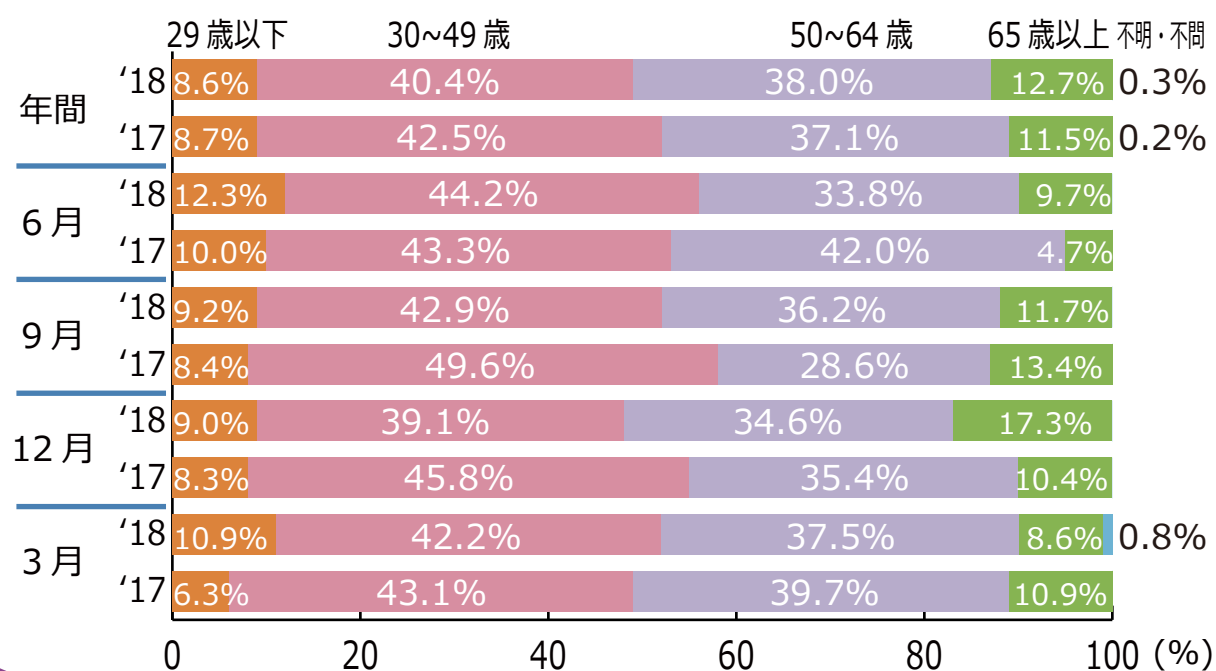
## (2) 道路形状別事故発生割合（全事故）

道路形状別では、交差点及びその付近が6月、9月で増加したものの12月、3月では減少しました。



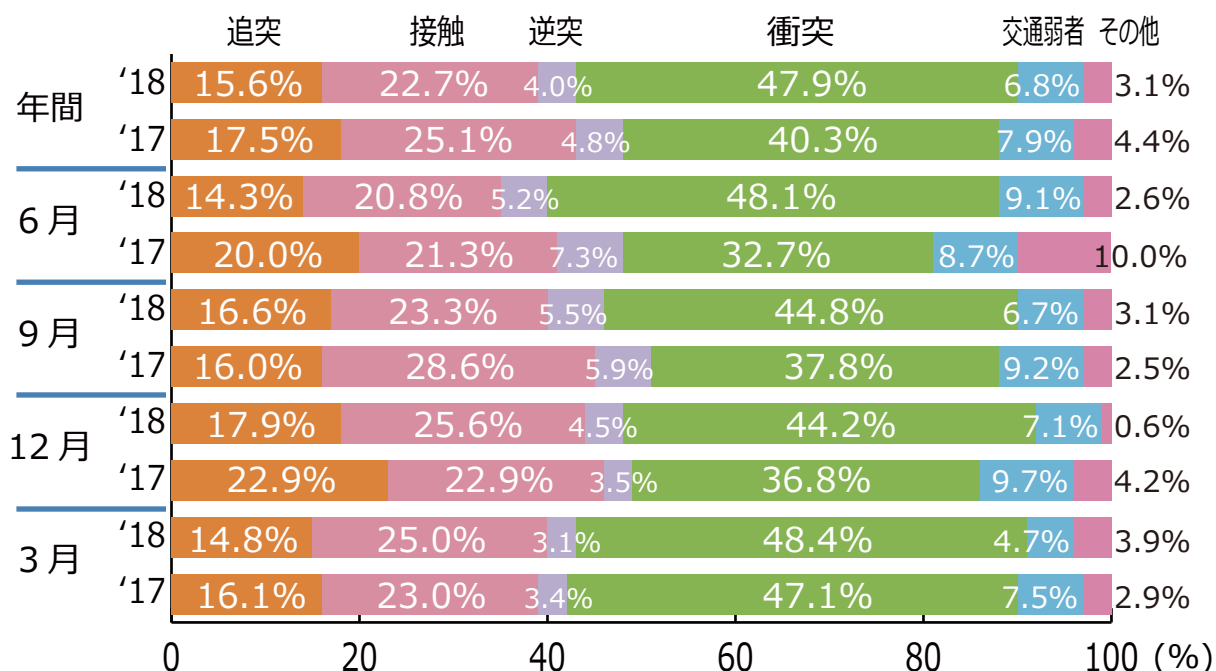
## (3) 運転者年齢層別事故発生割合（全事故）

運転者年齢層別では、29歳以下が全ての強化月で増加し、30歳以上の年齢層において、3月は全て減少しました。また、65歳以上の年齢層において12月は前年度比6.9%増加の17.3%と高い割合となりました。



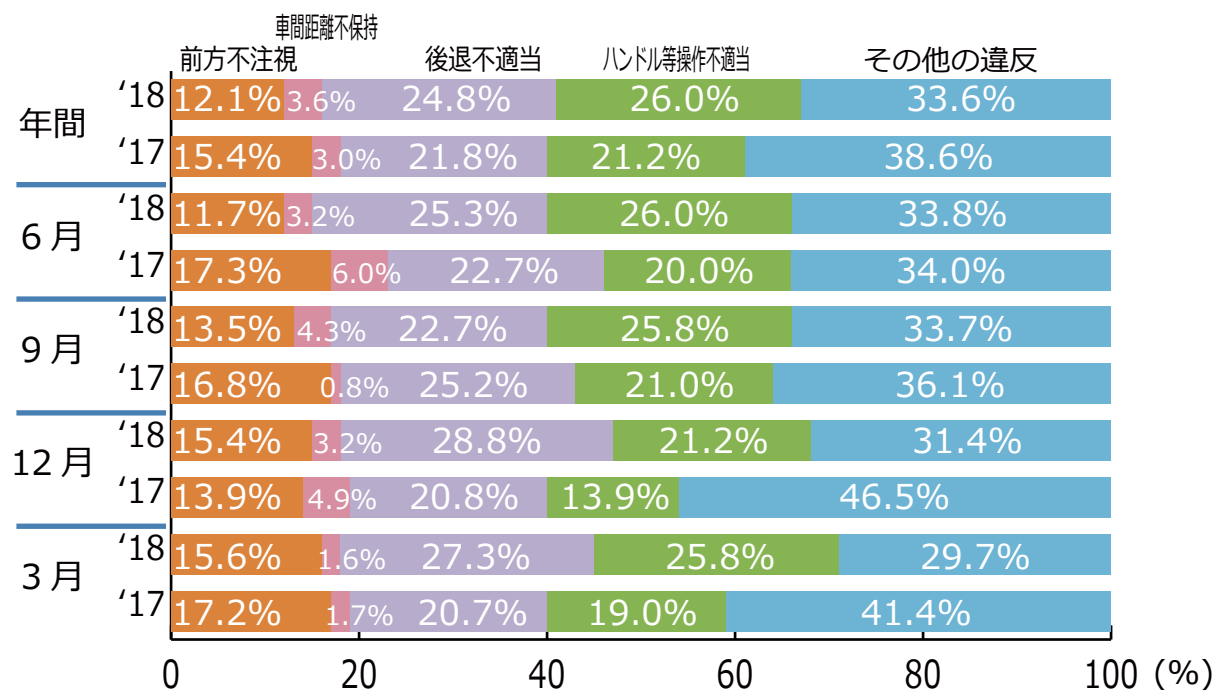
#### (4) 類型別事故発生割合（全事故）

類型別では、追突は9月以外が減少、接触は12月および3月が増加、衝突は全てにおいて増加しました。



#### (5) 原因別事故発生割合（全事故）

原因別では、前方不注意は12月が増加、後退不適當は9月以外が増加しました。



## 8. 交協連傘下15組合の2018年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

### (1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区分		神奈川	15 組合合計	15 組合平均	神奈川の割合
共済種目別		(件)	(件)	(件)	(%)
対人	発生件数(件)	412	6,229	415	6.6
	死者数(人)	7	113	7.5	6.2
	傷者数(人)	527	8,084	539	6.5
	100両当りの事故件数	2.43	—	1.99	0.44(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,602	29,735	1,982	5.4
	100両当りの事故件数	11.95	—	10.48	1.47(平均との差)

### (2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区分	神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
事故原因別	(件)	(%)	(件)	(%)
前方不注視	146	35.4	2,527	40.6
車間距離不保持	44	10.7	754	12.1
後退不適當	29	7.0	312	5.0
ハンドル等操作不適當	57	13.8	651	10.5
徐行違反			17	0.3
左折違反	2	0.5	219	3.5
右折違反			205	3.3
一時停止違反			39	0.6
最高速度違反			3	0.05
優先通行違反			32	0.5
追い越し違反			59	0.9
横断(転回)違反			12	0.2
信号無視	7	1.7	134	2.2
酒酔い・酒気帯び			1	0.02
安全運転義務違反(安全速度)	1	0.2	23	0.4
安全運転義務違反(その他)	39	9.5	799	12.8
交差点安全進行義務違反	45	10.9	269	4.3
不明・その他の違反	42	10.2	173	2.8
合計	412	100	6,229	100

(3) 類型別事故発生状況（対人事故）

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車両	追突（走行中）	26	6.3	570	9.2
	追突（停止中）	181	43.9	2,466	39.6
	正面衝突	3	0.7	93	1.5
	側面衝突	8	1.9	437	7.0
	接 触	73	17.7	1,291	20.7
	その他	42	10.2	352	5.7
	小 計	333	80.8	5,209	83.6
	（うち 自動二輪・原付）	46	11.2	414	6.6
歩行者	19	4.6	320	5.1	
自転車	47	11.4	546	8.8	
単独（その他）	13	3.2	154	2.5	
合 計	412	100	6,229	100	

(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満		5	1.2	42	0.7
20~24 歳		24	5.8	248	4.0
25~29 歳		15	3.6	263	4.2
30~34 歳		18	4.4	372	6.0
35~39 歳		22	5.3	478	7.7
40~44 歳		54	13.1	765	12.3
45~49 歳		82	19.9	1,007	16.2
50 歳以上		192	46.6	3,054	49.0
合 計		412	100	6,229	100

（引用：平成 30 年度 交通共済統計年報データ）



神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL . 045-475-2134 FAX . 045-475-2144

HP : <http://shinkokyo.or.jp>

(2019/11/27)